

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】長谷村バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口	面積
		公表回	公表年月日			(人)	(km ²)
5	2005.9.29			長野県	長谷村	2,230	320.81
構想の要約		木質ペレットの加工過程で微粉化されたカラマツ間伐材や木くずを出発原料として、含まれる豊富な多糖類から機能性食品原料等(糖・糖アルコール製品、発酵製品等)を生産し、さらに残留成分をエネルギー化することで、高付加価値の高いバイオマス利活用事業を実現する。					
構想に盛り込まれた事業		木質バイオマスの利活用					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス				
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物
家畜排せつ物		稲わら・もみがらなど		資源作物
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部		
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材	○	
廃食用油		果樹剪定枝		
水産加工残さ		竹材		
製材工場等残材	○	その他()		
建設発生木材				
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草				
古紙・廃棄紙				
下水汚泥など	○			
その他(ダム流木)	○			

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	○
飼料化		直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他()		炭化	
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	○
		バイオディーゼル燃料化	
		バイオエタノール化	
		その他()	

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標

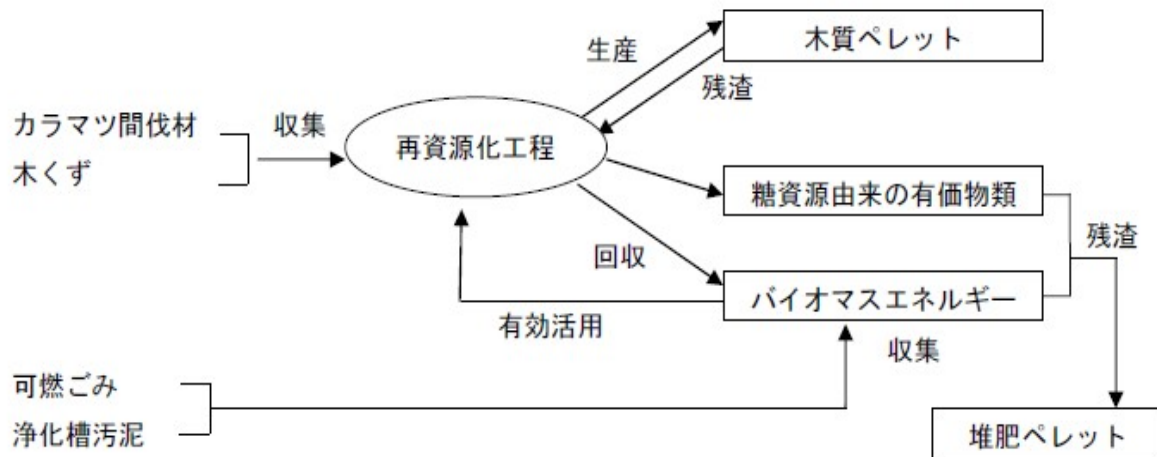
(バイオマスタウン構想書からコピー)

(1) 利活用目標

村内で発生する切捨間伐材、林地残材、ダム流木のうち利用可能なバイオマスの総量は9,756t/年である。木くず(端材、のこくず、樹皮、カンナくず等)については、上伊那地域全体で5,700t/年程度が発生していると推定され、間伐材は5万t/年程度の収集が可能であるとみられる。一方、廃棄物系バイオマスについては可燃ごみの発生量は309t/年、農業集落排水汚泥の発生量は14t/年である。最終的な事業目標として年間排出量ベースで、未利用バイオマスの85%以上について、その総合的な利活用を進める。

バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)



実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

	添付別紙(パンフレット等)参照 (事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)
事業の概要	